

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100114		
法人名	株式会社 ケア・コスモス		
事業所名	グループホームみどり荘		
所在地	群馬県前橋市公田町 1194番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成24年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が日常生活の中で楽しく暮らしていただけるかを考え、イベント等を計画しているので、ご家族を含めてたいへん喜んでいただいている。入居者様の自立を心がけている。できることは「ご自分で」と時間がかかって職員が楽しく仕事ができれば入居者の方に反映してしまうので、日々コミュニケーションを取り合い、笑いの絶えない、明るい雰囲気を出すよう気をつけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは木造の平屋で、廊下は吹き抜け天井になっており、高い窓から光が射し込み明るい。廊下、畳スペースがあるホール、台所等ゆったりとした共用空間になっており、清掃が行き届き清潔感がある。開設時に全職員でホームの理念を考案し、入居者の笑顔を引き出せるケアのあり方を検討し、そのためには、職員自身の明るい笑顔が重要と考え、理念に盛り込んでいる。明るい職員の言葉かけに入居者自身も明るく、冗談も飛び交う談笑風景がある。管理者はサービスの質向上を目指し、職員の育成が重要と考え、研修に積極的に参加する職員を応援し、職員も真摯に介護に向かい合い、自己研鑽をしている。一人ひとりの入居者の生き甲斐のある暮らしの支援に職員が一丸となって取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念なので、常に実践している。	開設時に全職員で理念を考え、ホーム独自の理念を創り上げている。職員は笑顔の大切さを基本姿勢に、入居者一人ひとりが生き甲斐を持って暮らせる支援を日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に畑を所有している方から野菜をいただいたりしているので、お礼にイベント等の案内をしたり、年末年始のご挨拶等は欠かさず、声かけを心がけています。	近隣を散歩の折に住民の方と会話をしたり、ホーム近くの畑を耕作する方から野菜を頂いたりしている。また、地域の納涼祭に出向き、同系列のグループホームと合同の納涼祭には地域の方を招待しボランティアに呼びかけ、フラダンスやダンパー踊りを一緒に楽しみ、地域交流が図られている。	幅広い地域住民との交流が図れるように地域の幼稚園等にも積極的な働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常に思いはあるが、なかなか実践できず、課題です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの会議で行事や、入居者様の変化や、状況をきちんと報告し、意見があった場合はかならず取り入れている。	2ヶ月毎の運営推進会議は、同系列のグループホームと合同で開催し、議題の行事運営や利用状況・評価結果報告等について意見交換をしている。外出行事に公営の日帰り温泉利用の意見等があり、サービスに活用している。会議開催日を週末土日を除いた日を予定し、全家族に案内を出しているが出席する家族がすくない。	家族を含めて多数の参加者からの意見や提案等が聞けるよう開催日やメンバー等の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	時間的に密に連絡を取り合うことは難しいが、問題等あった細かく指導してもらっている。	ケアマネージャーは、報告や介護保険更新時に市に出向いている。運営推進会議においても、初市の駐車場の確保や往診によるフルエンゼの予防接種等を相談している。協力関係を築くよう取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては常に意識して取り組んで、拘束しないケアに心がけている。	職員は外部及び社内の研修会に参加し、身体拘束をしないケアについて理解をしている。外出傾向の方がおり、安全を考えてテラス及び玄関の施錠をしているが、テラスの鍵は内側から開けられるようになっている。出かけた様子が見られるとスタッフと共に近隣に出かけ、気分転換を図っている。	玄関の施錠を含めての身体拘束のケアについて、全職員で引き続き検討をして頂きたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で常に話し合い、虐待が見過ごされないよう心がけ、防止に努めている。研修の機会があればどんどん参加をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年後見制度についての研修があり、職員を参加させた。少しずつ職員に意識づけしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネージャーと管理者が共に説明をし、理解・納得していただいている。疑問点はいつでも対応できる旨話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情受付箱を設置している他、本社にも苦情受付等の係もいるが、利用者や家族はいつでも職員、管理者に要望等が言える体制を整えている。	契約時に、外部を含めた苦情受付の窓口について説明し、意見箱も玄関に設置している。苦情処理の体制があり、家族の来訪時には直接意見・要望を聞くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の話の中で管理者が聞き、代表者に報告し、改善等の必要なことには対応している。	毎月の職員会議及びミーティング時に、意見や提案を聞いて管理者会議で検討し、本部に報告し、運営に反映をしている。毎月の社内勉強会(チームワーク・後見人制度等)に職員は参加し、外部の研修会希望には勤務調整が行われ受講をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の把握に努め、安心して働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は社内研修を月1回行いケアに関して再確認をしたり、職員の実力に合わせて、外部の研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、ケアコスモス内の施設に研修に行き、交流を図り、自分たちのケアに取り入れてきたが、来年度は他の事業所との交流する機会を取り入れる予定でいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にケアマネジャーと管理者が家族を含め話を聞き、要望に応じてられるように努めている。又、職員は入居者の話にいつも耳を傾けているので、入居者との信頼関係は築けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にケアマネジャーと管理者が家族を含め話を聞き、要望に応じてられるように努めているし、家族の要望もいつでも聴く体制は整っているため、信頼関係は築けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーと管理者が、聴き取りの中から必要性を見極め、きちんとしたサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	忙しい中でも、職員は入居者と一緒に話をする時間は常に持ち、入居者の動向を把握し、共同生活が送れるよう気を配っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	推進会議の出席依頼やイベントに参加してもらったり、毎月必ず入居者の施設での様子や、変化等を家族に報告し、絆が切れないうように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人親戚等の面会は自由に行っている。	家族の他に親戚や友人が面会に見えたり、成人式の振袖姿の孫が訪れたりしている。家族と一緒に、年末に外泊や墓参り、外食、行きつけの床屋や美容院、馴染みの歯科医院等に出かけて、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で孤立しないようレクリエーション等で、関係を築けるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去・転居・死亡等で当施設を去られても、他施設に訪問したり、手紙等で関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の一人ひとりの今の思いは何かを言葉や行動、表情を通し、感じるように努めている。又、毎日のミーティングでは各利用者様に、どのような対応が必要かを検討している。	介護の担当職員制を採り、馴染みの関係を作り、居室のレイアウトは本人の希望を聞いてベッドの位置を変えたり、シーツ交換と一緒にしたり、季節の服装等の希望や意向の把握に努めたりしている。意思を尊重し、無理強いはいしていない。意思の疎通が困難な方には、家族の意見を聞き検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報(入所前の生活歴)、入居前の利用施設の情報、入院時の情報は入居者一人ひとりの基本情報やアセスメント用紙を作成し、現在の生活や今後の生活への検討資料としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝、夕の職員業務内での引継ぎ報告時、入居者一人ひとりの身体状況を報告し検討を行い、それぞれの変化は、責任者から、口頭、メール、電話を利用してケアマネに報告、連絡をし、y状況の変化のは適切な対応が出来るよう勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の現状の詳細をモニタリング確認の上、アセスメント用紙を作成、受診時は管理者が同席し心身の状態を把握している。又、ホーム内で出来る、手浴、足浴の執行や心身の改善に繋がるよう、医師、看護師の意見を伺った上で、計画書の作成を行なう。	入居時には心身の状態・生活状況等の基本情報の他、家族の希望を聞き、医師や看護師等の意見を参考に、介護プランが作成されている。3ヶ月毎の担当者会議で見直し、毎月のモニタリングはプランに反映をさせている。細かい変化は1日2回のミーティングで検討し、介護記録や日誌等により申し送り時に周知徹底している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3か月に1度の計画書作成時の他、小さな変化も職員内で情報として報告を行い、対応内容の検討の経緯は介護経過記録として書類を作成、その後の受診時等の資料としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりが自宅生活に近い、安心した生活を送れるよう、規定サービスにとらわれず、個々に必要な支援を重要視して柔軟な姿勢での対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に合わせて、正月の市、桜の花見、地域住民参加の夏祭り、安全確保の上での花火見物、近隣で可能となる紅葉を見ながらの日帰り(2~3時間)の温泉利用、を実施し入居者が季節を感じて心が豊かになる暮らしを継続できるよう、職員と計画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回は主治医による全利用者様への往診、又週1回は医師の指示により、看護師の訪問で必要な身体的処置を受けている。必要な他病院への通院は家族が職員が同行しそれぞれの心身状況にあわせて、対応を行なっている。	本人・家族が希望のかかりつけ医としている。協力医の月2回の往診の他、医師の指示により毎週の健康チェック・訪問看護師の処置等が行われている。また、かかりつけの歯科に家族が同行したり、家族の都合により病院受診の際に職員が同行し状況を家族に報告したりして、適切な医療が受けられるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時は管理者が同席の上、処置の方法を観察の上、必要な対応を確認、又本人に対する必要な情報は速やかに伝えられるよう勤めている。詳細はケアマネへの連携報告として行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時の入院が必要となった状況は医療機関に速やかに報告し、又、退院が見込まれた時は、家族を含む会議への参加を行なう、その後も病院の相談員さんと退院後の生活を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意思を確認、思いに添ったケアが出来るよう、関係者間で相談、常に家族と連携をとりながらの職員対応を検討の上実施していく。	契約時に、重度化や終末期ケアについて説明し、本人家族の希望を尊重したい旨を伝えられている。必要時には、家族・かかりつけ医・看護と連携し、方針の共有を図っている。看取りを経験しており、職員は看取りのケア研修会を受講し、職員の勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網を作成し、速やかな対応が出来るよう、毎月の職員全員ミーティング時に確認、書類は職員室に提示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの上、避難訓練を実施。施設内は防災設備を整備の上、管理者は防災研修を受講、終了している、又近隣への挨拶時は災害時の協力を依頼、協力をお願いしている。	年2回、消防署の立会いの下、1回は夜間想定での避難訓練を実施し、避難場所の確認等を入居者と一緒に行っている。自動通報装置は同系列のグループホームと共有化がされ、応援体制がある。近隣に挨拶周り時に協力依頼をしているが、災害訓練時の参加はない。災害用備蓄品を3~4日分保管している。	地域の方に避難訓練への参加を呼びかけて、災害時に地域住民の協力が得られる体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員入居者の人格やプライバシーを尊重して対応している。	入居者の人格を尊重し、居室入室時に必ず声をかけ、一人入浴を行う等プライバシーに配慮している。「〇〇さん」の名前の呼称が基本であるが、家族に了解を得て、家庭と同様な普段の言葉使いで入居者の対応をすることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に日々の生活の中で入居者と向き合い、声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者のペースで生活が出来るよう、無理強いをせず、希望に添った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等は家族にも協力していただいているが、本人の希望を聞き職員が買って来たりして、希望に添った身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとり食べられる分量にしたり、食べられない物は別の物で対応したりしている。下膳等出来る人には協力してもらっている。	栄養士の作成した献立を基本に、職員が入居者の希望を聞き献立を作成し、食材は業者から購入をしている。入居者の力を活かして野菜の下拵え・片付け等を一緒に行っている。職員は食事介助時に、楽しい雰囲気作りを心がけている。また、おやつのお好み焼きや季節のおはぎ作り、テラスでのバーベキュー等を職員と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に関しては、栄養士が献立を作り、みどり荘の入居者に合ったメニューを作っている。水分量も確保できるよう気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアの声かけを行い、一人で出来ない入居者に対しては、見守り・介助を行い、洗面所で出来ない入居者には職員が口腔用ガーゼでケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	口腔ケア後に必ずトイレ誘導を行なっている。自立で立位の難しい入居者も、職員2人介助でトイレでの排泄を習慣化できるよう支援している。	排泄記録表により一人ひとりの排泄パターンを知り、一人ひとりのトイレでの排泄の自立を支援し、食後には必ず全員の排泄誘導をしている。日中はリハビリパンツを着用し、夜間は安眠を考えながら2回程のトイレ誘導を行って、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者には水分を多く摂るよう指導したり、便秘にいい食べ物が摂れるよう気をつけ、個々に対応できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当施設での入浴は午前と決めているが、入りたくない時は日をずらしたりしている。また季節に合わせて、ゆず湯・菖蒲湯・バラの花を散らしたりして、入浴を楽しんでいただいている。また時には日帰り温泉を楽しんでもらったりしている。	週2回の入浴をしているが、汗や汚れ等の必要時はシャワー浴をしている。季節の柚子湯や菖蒲湯、希望による一番入浴、長湯を好む方には時間を勘案し、楽しめるよう支援している。入浴を拒否する方には時間を変えたり、言葉かけの工夫等によりそれぞれに対応をしている。また、近隣の日帰り温泉での入浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒い時期、布団が冷たくて眠れない入居者には湯たんぽを入れたり、エアコンの風が直接当たらないように心がけたりして、個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者の服薬には十分理解しており、症状の変化を見逃さないよう気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみ等一人ひとりに合った「できる事」の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	老人センター等を活用し、観劇や歌謡ショーに行ったり、日帰り温泉や個々の希望に合った外出の機会を多く作り、気分転換を図っている。	晴れた日は庭先でのティータイムや外気浴、近隣の散歩では車椅子の方と共に行き交う方との会話を楽しんでいる。また、病院受診の帰りに家族と共に買い物や外食をしている。日帰り温泉や近隣の老人センターに出かけ、観劇や歌謡ショーを楽しむ等、一人ひとりの希望に添った外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別外出時に好きな物を購入し、職員見守りで支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけられないが、希望があれば職員が掛け、話ができるよう支援している。手紙のやり取りができる入居者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の温度設定や、灯りは不快感がないよう配慮し、飾りつけなどで季節感を取り入れて心地良く過ごせるよう工夫している。またトイレの臭いや汚れに気をつけ、安心して使えるよう心がけている。	共用空間には和室があり、皆で寛げるようソファが置かれている。廊下には利用者の折り紙等の作品や絵画が飾られている。トイレは、汚れ等綺麗に清掃され清潔感があり、居心地よい暮らしを支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に和室があり、ソファを窓に向けて座れるようにしてあるため、入居者同士座って会話を楽しんだりしている。また天気の良い日はテラスや庭に出て、日光浴を楽しんだりして過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に添って、自宅で使い慣れた家具や生活用品を持参してもらい居心地よく過ごせるようにしている。	居室は和室・洋室があり、使い慣れた家具・置物などが持ち込まれている。外の景色が眺められるベッドの設置、気分転換を図る為のベッドや椅子の位置変え等を自由に行い、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不要な物や入居者にとって危険な物は置かず、安全に生活できるよう配慮している。		